

第5学年 社会科学学習指導案

1. 小単元名「情報ネットワークと私たちの暮らし～災害に関する情報ネットワークとのかかわり方～」

2. 指導観

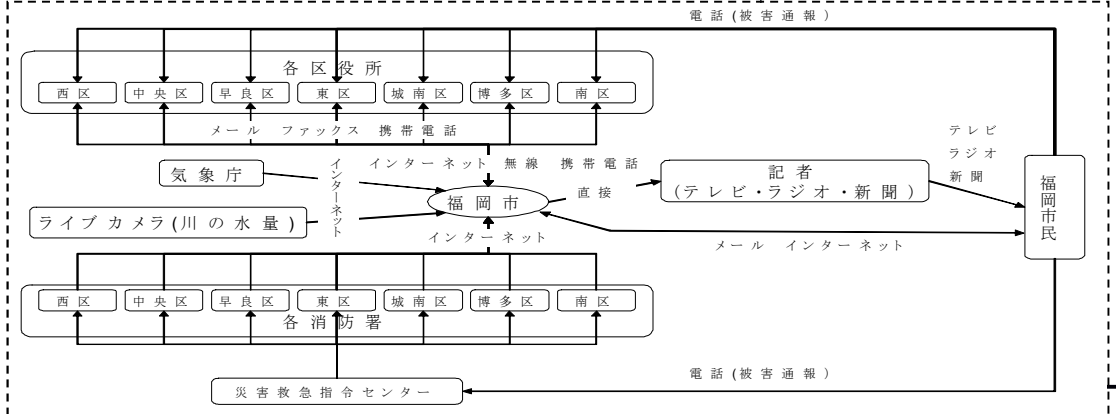
- 子どもたちは前単元で、テレビ番組をつくる人々が、正確な情報を速く、分かりやすく伝える工夫や努力をしていることやそれらが私たちの生活を支えていることを理解してきた。また、送り手と受け手の立場で情報産業の働きや役割について考え、送り手は発信する情報に責任をもつことが大切であることを考えてきた。学び方の面では、社会的事象に触れると一生懸命に目を向けたり、自分の課題解決に向けて熱心に資料を選択しまとめたりするなど、とても意欲的に追究する子どもたちである。しかし、自分が伝えたい考えを、根拠をもとにして相手に分かりやすく伝えることがうまくできない子どもがいる。また、考えを話し合う場になると手を挙げて発表する人数が減り、消極的な話し合いになってしまうことがある。情報に関する実態調査では、ニュースや天気などの情報を得る手段としてテレビを多く利用していることが分かった。パソコンや携帯電話を利用している家庭も比較的多いことが分かった。
- 本小単元は、災害時における情報ネットワークの働きが国民生活に様々な影響を及ぼしていることを理解するとともに、情報ネットワークを有効に活用する大切さについて考え、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする態度をもつことをねらっている。そこで、平成21年7月24日の水害時における福岡市市民局生活安全・危機対策部防災・危機管理課に設置してある情報ネットワークの仕組みやそれを工夫・改善・利用している課の人々の働き、被害の大きかった〇〇地区で〇〇公民館へ避難した方の動きを教材として取り上げる。これらを教材として取り上げる価値は次の通りである。市民の安全を守ることができるよう、様々な機関と災害に関する情報をやりとりできる情報ネットワークが整備されていることや、市民に早く知らせるネットワークがあること(感動性)。水害により、避難された方はどのような方法で情報を手に入れ避難することができたのか、その情報は誰がどのようにしてつくり市民に知らせたのか疑問に思うことができる(疑問性)。今回の災害における情報ネットワークとのかかわり方について、送り手と受け手の双方の立場に立って考えることができる(多面性)。これらの視点から、ねらいを達成させる上でとても意義深い教材であると考えられる。
- 本小単元の指導にあたっては、「見つめる段階」では、災害時における福岡市の情報ネットワークについて問題意識をもたせるために、福岡市災害対策本部と〇〇公民館に避難する人々の情報におけるつながりを考えさせていく。「見分ける段階」では、情報ネットワークの働きが国民生活に様々な影響を及ぼしていることを理解させるとともに、今回の災害時における福岡市の情報ネットワークについての問題点に気付かせるために、正反対の側面から考え直す事実を提示し、発展性に目を向けさせるような発問を行う。「見極める段階」では、今後、災害時における送り手や受け手の情報ネットワークに関してのかかわり方について考えさせるために、考える尺度を与えることができるような話や映像を聞いたり見たりさせ、考えを深める発問を行う。

3. 小単元の目標

- 災害時における情報ネットワークに関心をもち、情報ネットワークの働きが市民の安全を守るために利用され、市民生活に様々な影響を及ぼしていることを進んで調べ、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする態度を身に付けることができる。(関心・意欲・態度)
- 今後、災害時における情報ネットワークのかかわり方について、情報の送り手や受け手の双方の立場に立って考え、自分の考えを見直すことができる。(思考・判断)
- 災害時における様々な情報を必要に応じて瞬時に受信したり発信したりすることができる情報ネットワークの働きが市民の安全を守るために利用され、市民生活に様々な影響を及ぼしていることを、情報を収集・活用・伝達する福岡市の方から話を聞いたり具体的資料を効果的に活用したりして調べ、自分の考えをまとめることができる。(技能・表現)
- 災害時には、福岡市は様々な情報ネットワークを活用して得た情報を、テレビやインターネットなどのマスメディアを通じて市民に知らせたり、市民の多くがそれらを利用したりしていることや、情報ネットワークの働きが国民生活に様々な影響を及ぼしていることを理解することができる。(知識・理解)

5. 学習問題について話し合い、自分の考えを見直す。

(1) 学習問題について話し合う。



(2) 災害時における情報ネットワークのよさについて考える。

(3) 7月24日当日の状況を知り、災害時における情報ネットワークの問題点について考える。

多くの市民が災害に関する情報を知ろうとアクセスしたため、福岡市のメールやインターネットが使えなくなった!

7月24日の主な様子一覧 ※ 橋 :川)					
17:09	18:40	19:05	19:18	19:40	20:10
発大 表雨 ・ 洪水 警報	超 氾 濫 危 険 水 位	配 対 策 本 部 勢 強 化	避 難 勸 告 丁 目	最 高 水 位 記 録	切 氾 濫 危 険 水 位
3,300ミリ			4,240ミリ		

今回の災害時における情報ネットワークのよさや問題点、今後の課題について考えさせるため。

正反対の側面から考え直す事実を提示し、発展性に目を向けさせるような発問を行う。

福岡市は、各区役所や各消防署、気象庁、ライブカメラなど、インターネットや無線を使って、天気や災害の情報を集め、大雨・洪水注意報や警報、避難指示や勧告などの情報を、直接記者に伝え報道してもらったり、メールやインターネットで市民に知らせたりしている。また、パソコンメールやファックス、携帯電話メールなどを使って、各区役所や各消防署と被害の状況や市民の様子などの情報をやりとりしている。しかしまだ、メールやインターネットが使えなくなってしまい、福岡市は必要な情報を伝えることができなかつたり、多くの市民が福岡市のホームページにアクセスしてしまつたりと問題点もある。

私たち市民が、どこにいても災害に関係する必要な情報を知ることができるようになるためには、どうしていけばいいのだろう。

6. 新たな課題について解決策を考え、話し合う。

(1) 同じ視点のグループで、話し合い、提案資料をつくる。

- ・パソコン機器強化
- ・連携強化
- ・情報を知る方法を増加

(2) 考えたことを話し合い、自分の考えを見直す。

- 解決策を話し合う。
- 福岡市の方の話を聞いたりテレビ放送を見たりして、優先順位とそのわけを話し合う。
 - ・福岡市・・・市民に信頼を得られるような工夫や努力
 - ・市民・・・日頃から・防災に対して心掛ける責任

福岡市は、市民に信頼を得られるような工夫や努力をしていることが分かった。私たち市民は、日頃から防災に対して心掛ける責任がある。

見極める立ち止まり

今後、災害時における送り手や受け手の情報ネットワークに関してのかかわり方について考えさせるため。

考える尺度を与えることができるような話や映像を聞いたり見たりし、考えを深める発問を行う。

第5学年 本時指導案

「災害に係る資料から学習問題をつくる場面」(2/9時)

5. 本時目標

- 身近に起きた災害について考えることで、災害の恐ろしさを感じるとともに情報の重要性を確認し、情報ネットワークについて意欲的に調べようとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- 災害時に福岡市災害対策本部が情報を集めている様子や、発信されている情報をもとに市民が避難している様子から学習問題をつくることができる。
(思考・判断)

6. 本時学習にあたって

子どもたちは、前時に生活を便利にしている情報について学習し、私たちの身の回りにはたくさんの方が情報があり、その情報を使うことで生活が便利になっていることに気付いている。しかし、それらの情報の重要性や必要性に気付いている子どもたちは少ない。また、ほとんどの子どもたちは、情報を集めたり、発信したりするネットワークの仕組みについて学習した経験がない。

そこで、災害の恐ろしさや情報の重要性(感動性)、福岡市がどのように情報を集め、どのような方法で知らせているか考えさせることをねらっている。

また、資料をもとに予想を話し合いながら学習問題をつくり、次時の調べ学習の視点づくりへとつなげていきたい。

そのために次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- 子どもたちの学習に対する意欲を高めるために
 - ・ 子どもたちにとって身近な出来事であり、恐ろしさや大変さを実感しやすいであろう7月24日の大雨と〇〇の人々の様子を取り上げ、大雨が降った時の被害の様子や避難している方の様子をビデオ映像で流すことにより、被害の大きさや大変さが伝わるようにする。
 - ・ 7月24日の大雨のことを思い出し、災害時には情報がとても大切だということを確認する。
 - ・ 福岡市災害対策本部で情報を集めている様子と避難している人の様子を絵に表し、提示する。そしてその過程を予想させることで、福岡市がどのように情報を集め、どのような方法で市民に知らせているか疑問をもたせる。
- 情報ネットワークに関する学習問題をつくるために
 - ・ 福岡市に対策本部ができ、避難勧告が出されるまでどのように情報を集めるか、市民が避難するまでどのようにして情報を入手しているか予想させることにより、災害時の情報ネットワークについてのイメージをもたせる。

7. 本時の展開

□：ねらい ■：手立て

主な学習活動と内容(※教師の支援)	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> その日の様子を想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>7月24日の様子から、気付いたことを話し合い、学習問題をつくろう。</p> </div> <p>2. 7月24日の大雨が降った時のビデオ映像を見て、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 分かったことを発表する。 思ったことを発表する。 知りたいことを発表する。 <p>※災害の恐ろしさや情報の重要性を感じさせるために、意図的に上のような順序で考えさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">避難している 人や命を落とした 人がいること</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">交通や家への 浸水などたくさん の被害があった</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">たくさんの情 報が出されてい た。</div> </div> <p>3. 福岡市が情報を集めている様子や、避難勧告が出された後公民館に避難している人々の様子を表した資料から考えたことを話し合い学習問題をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 福岡市が何をしていたか考える。 避難勧告について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 洪水の可能性がある時 土石流や山崩れの可能性がある時 など <p>※避難勧告（住んでいる人に立ち退きを勧め促すもの）の意味を説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 避難している人々について考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">福岡市災害対策本部ができる</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">避難勧告が出される</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">公民館などに避難する</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>どこからどんな情報を集めたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気象庁から天気の情報 川の水の量 道路の様子 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>どんな方法で伝わったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> テレビ 携帯電話 インターネット </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題</p> <p>福岡市は、どのようにして災害に関する情報を集め、どのような方法で市民に知らせることができたのだろう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 学習問題をつくる。 <p>4. 「今日の学習で」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対する予想とそのわけ 	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <p>〇〇〇でも道路に水がたまって、とても大変だったなあ。</p> <p>〇今日は大雨が降った時の資料から学習問題をつくるぞ。</p> <p>〇大雨は命にかかわる恐ろしいものだ。</p> <p>〇情報がないと不安だ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>見つめる場面の立ち止まり</p> <p>□福岡市がどのように情報を集め、市民に対してどのような方法で情報を知らせようとしているか予想をさせながら共通の課題をもたせるため。</p> <hr/> <p>■公民館に避難している様子や福岡市災害対策本部で情報を集めている様子を絵に表し、資料として提示することで、その時の緊迫感を感じさせる。また、福岡市が中心となり情報を集めて、危険性が高い場合には避難勧告が出されるということを確認させることで、福岡市がどこから情報を入手し、どのようにして〇〇の人々が避難したのかを考えさせる。</p> </div> <p>〇間違えていたらいけないからいろいろなところから情報を集めたはずだ。</p> <p>〇僕はテレビで避難勧告を見たので、〇〇の人たちもテレビで見たんじゃないか。</p>

第5学年 本時指導案

「自分の考えを見直し、新たな問題意識をもたせる場面」(7/9時)

5. 本時目標

- 災害時、福岡市は情報ネットワークを活用して入手した情報を、テレビやインターネットなどを通じて市民に知らせ、入手した情報は市民に影響を及ぼしていることを理解することができる。(知識・理解)
- 今回の災害時における福岡市の情報ネットワークについて、新たな問題意識をもつことができる。
(思考・判断)

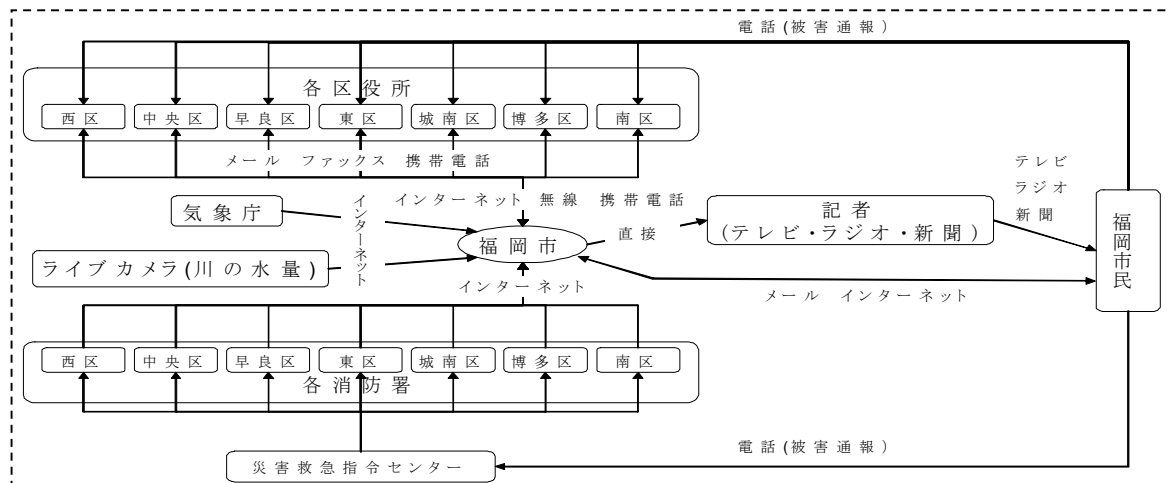
6. 本時学習にあたって

子どもたちはこれまでに、災害時のニュース映像や避難勧告が出された後、避難した人々の映像から「福岡市は、どのようにして災害の情報を集め、どのような方法で市民に知らせることができたのだろうか」という学習問題をつくり、自分自身の課題をもった。自分の考えを確かめるために、集める相手、集める方法、知らせる方法という視点に沿って、取材やパンフレットなどの資料を活用し、追究してきた。そして、追究していく中で、福岡市は1つの方法のみを使っているのではなく、いくつもの方法を使って他機関と連携して情報の収集・発信を行い、市民の安全を守ってきていることをとらえている。

そこで本時では、災害時、福岡市は情報ネットワークを活用して入手した情報を、テレビやインターネットなどを通じて市民に知らせ、入手した情報は市民に影響を及ぼしていることを理解させ、そこから現在の私たちの暮らしと災害時における福岡市の情報ネットワークについて、新たな問題意識をもたせることをねらっている。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- 災害時、福岡市は情報ネットワークを活用して入手した情報を、テレビやインターネットなどを通じて市民に知らせ、入手した情報は市民に影響を及ぼしていることを理解させるために
 - ・ 視点ごとに発表させ、福岡市と他機関、市民とのつながりが見えるよう矢印を使って板書していく。
- 今回の災害時における福岡市の情報ネットワークについて、新たな問題意識をもたせるために
 - ・ 今回の災害時における情報ネットワークのよさについて、福岡市と市民の双方の立場で考えさせる。
 - ・ 受け手が情報を入手することができる携帯電話メールやインターネットが使えなくなってしまったことと、24日当時の主な様子一覧を提示し、情報ネットワークについての問題点を話し合わせる。
 - ・ 「これからを考えたとき、このままでよいだろうか」と災害時における福岡市の情報ネットワークの発展性に目を向けさせる発問をし、話し合わせる。



【災害時における福岡市の情報ネットワークが分かるように工夫した図】

7. 本時の展開

□ : ねらい ■ : 手立て

主な学習活動と内容(※教師の支援)	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 本時めあてを確認し、本時学習の流れを知る。</p> <div data-bbox="183 286 1034 421" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 学習問題の答えを話し合い、災害がおきたときの情報ネットワークのよさと課題を考えよう。</p> </div> <p>2. 学習問題について話し合い、自分の考えを見直す。</p> <p>○学習問題について話し合う。</p> <p>※福岡市が、どこからどのようにして情報を集め、どのような方法で市民に知らせているか理解しやすいように、子どもの発表を聞きながら「本時学習にあたって」に載せているような図を黒板につくっていく。</p> <p>○災害時における情報ネットワークのよさについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市…天気や雨量、災害情報などの情報を速く集めることができること ・市民…知りたい情報を速く知ることができること どこからでも知ることができること(携帯電話) <p>○7月24日当時の状況を知り、災害時における情報ネットワークの問題点について考える。</p> <div data-bbox="183 987 584 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>多くの市民が災害に関する情報を知ろうとアクセスしたため、福岡市のメールやインターネットが使えなくなった</p> </div> <p>※災害時における情報ネットワーク図の、福岡市と市民のネットワークであるインターネットと防災メールのところに×印を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市…システムがストップ。 →市民に情報を速く伝えることができなかったこと ・市民…多くの人がパソコンや携帯電話を使ってアクセス。 <div data-bbox="183 1391 1034 1487" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>私たち市民が、どこにいても災害に関係する必要な情報を知ることができるためには、どうしていけばいいのだろう。</p> </div> <p>3. 今日の学習を振り返る。</p> <p>○「今日の学習で」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワークのよさと課題 ・新たな課題についての自分の考え <div data-bbox="183 1783 1410 1980" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>福岡市は、各区役所や各消防署、気象庁、ライブカメラなど、インターネットや無線を使って、天気や災害の情報を集め、大雨・洪水注意報や警報、避難指示や勧告などの情報を、直接記者に伝え報道してもらったり、メールやインターネットで市民に知らせたりしている。また、パソコンメールやファックス、携帯電話メールなどを使って、各区役所や各消防署と被害の状況や市民の様子などの情報をやりとりしている。しかしまだ、メールやインターネットが使えなくなってしまい、福岡市は必要な情報を伝えることができなかったり、多くの市民が福岡市のホームページにアクセスしてしまったりと問題点もある。</p> </div>	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <p>○調べてまとめた自分の考えを伝え、友達と比べるぞ。</p> <p>○福岡市は、災害に関係する情報を、情報ネットワークを使って集め、テレビやメールなどで市民に知らせている。</p> <p>○私たちの安全を守るのにとってもいいシステムだ。</p> <div data-bbox="1070 815 1422 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">見分ける立ち止まり</p> <p>□ 今回の災害時における福岡市の情報ネットワークのよさや問題点、今後の課題について考えさせるため。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>■ 正反対の側面から考え直す事実(受け手が情報入手することができる携帯電話メールやインターネットが使えなくなってしまったこと)を提示し、問題点を話し合う。そして、「これから考えたとき、何が課題かな?」と発展性に目を向けさせるような発問をする。</p> </div> <p>○私たち市民が、必要な情報を知るためには、どうなればいいのか。</p>

第5学年 本時指導案

「今後の情報化社会を送り手と受け手の双方の立場で考える場面」（9／9時）

5. 本時目標

- 今後、災害時における情報ネットワークのかかわり方について、情報の送り手や受け手の双方の立場に立って考え、自分の考えを見直すことができる。 (思考・判断)
- 情報ネットワークを活用するときは、どのようなことを考え、どのような行動をしていけばよいかを「学習を振り返って」に進んで書くことができる。 (関心・意欲・態度)

6. 本時学習にあたって

子どもたちはこれまでに、7月24日の中国・九州北部豪雨の様子と当時の福岡市の動きから、学習問題「福岡市は、どのようにして災害に関係する情報を集め、どのような方法で市民に知らせることができたのだろう。」をつくり、集める相手、集める方法、知らせる方法について調べていった。調べた結果、福岡市は、各区役所や各消防署、気象庁、ライブカメラなど、インターネットや無線を使って、天気や災害の情報を集めていること、集まった情報をメールやファックス、携帯電話メールなどを使って、各区役所や各消防署へ報告していること、避難指示や勧告などが決まったときは、直接記者に伝え報道してもらったり、メールやインターネットで知らせたりしていること、私たちも福岡市のホームページや防災メールなどで知ることができることを理解してきた。また、7月24日当日、多くの市民が災害に関する情報を知ろうと福岡市のホームページにアクセスしたため、福岡市のメールやインターネットシステムが動かなくなってしまうという事実を知らせ、新たな課題「災害が起きたとき、私たちがどこにいても必要な情報を知ることができるようになるためには、どうしていけばいいのだろう。」をつくり、同じ視点の小グループで話し合っている。

そこで本時では、災害時における情報ネットワークについて、情報の送り手は発信する情報に責任をもつことや、受け手は情報を有効に活用しながら生活する大切さを考えさせることをねらっている。

そのために、次のような手立てをとって学習を展開していく。

- 今後、災害時における送り手や受け手の情報ネットワークに関してのかかわり方について考えさせるために
 - ① 前時にグループで考えた解決策について意見交流を行わせる。
 - ② 7月24日以降の福岡市防災・危機管理課の取組について、福岡市防災・危機管理課の方の話を聞く。また、8月17日のテレビ放送「災害情報をどう入手する？」を見る。
 - ・ 福岡市防災・危機管理課の取組・・・サーバー改善、各区役所や各消防署等の連携見直し
 - ・ テレビ放送「災害情報をどう入手する？」・・・市民の防災に対する意識や知識(洪水ハザードマップ、防災マップ、防災メール)
 - ③ 「今後、もっとよりよくしていくためには、どれを優先していくといいか。」と発問し、小グループで優先順位とそのわけを話し合わせる。

自分たちが考えた内容と、実際に福岡市が以前から計画している取組または災害後の取組、市民の防災に対する意識や知識について比較させることで、同じような考えに共感したり異なる考えに納得したりことができ、福岡市が市民に信頼を得られるような工夫や努力をしていること、市民は日頃から防災に対して心掛ける責任があることに気付かせることができると考える。

7. 本時の展開

□ : ねらい ■ : 手立て

主な学習活動と内容(※教師の支援)	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 本時めあてを確認し、今日の学習の流れを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて 私たち市民が、どこにいても災害に関係する必要な情報を知ることができるようになるためには、どうしていけばいいか話し合おう。</p> </div> <p>2. 考えたことを話し合い、自分の考えを見直す。</p> <p>○前時にグループで考えたことを提案し、意見交流をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">福岡市</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">市民</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>パソコン機器強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりやすく ・情報を速く知らせる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>情報を知る方法を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンクを避けるため </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を早く手に入れる </div> <p>※事前に各グループが発表する内容を把握し、視点の違う3つ程度のグループを提案させ、提案しないグループは付け加えなどで意見交流させる。</p> <p>○福岡市防災・危機管理課の方の話を聞いたり、テレビ放送「災害情報をどう入手する？」を見たりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市防災・危機管理課の取組 サーバー改善、各区役所や各消防署等の連携見直し ・テレビ放送「災害情報をどう入手する？」 市民の防災に対する意識や知識 →洪水ハザードマップ、防災マップ、防災メール <p>○どれを優先するか話し合い、お互いにとって何が大切か話し合う。</p> <p>※一人一人が十分に意見を述べたり、友達の考えを聞いたりできるように、小グループで話し合う時間を設ける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">福岡市</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">市民</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>市民に信頼を得られるような工夫や努力</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>防災に対して日頃から心掛ける責任</p> </div> </div> <p>3. これまで学習してきたことを振り返り、発表する。</p> <p>○「学習を振り返って」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワークへのかかわり方について (送り手と受け手の双方の立場で) <p>○書いたことを発表する。</p>	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <p>○グループで考えてきたことを提案し、よりよい考えを創っていくぞ。</p> <p>○携帯電話を持っている人が多いから、ホームページや防災メールが使えなかったのは、とても大きな問題だった。いつでもつながるように、福岡市はパソコン機器を整備したほうがいい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>見極める立ち止まり</p> <p>□今後、災害時における送り手や受け手の情報ネットワークに関してのかかわり方について考えさせるため。</p> <p>■考える尺度を与えることができるような話や映像(福岡市防災・危機管理課の取組、テレビ放送「災害情報をどう入手する?」)を聞いたり見たりさせる。「今後、もっとよりよくしていくためには、どれを優先していくといいか。」と考えを深める発問をする。</p> </div> <p>○福岡市は、市民に信頼を得られるような工夫や努力をしていることが分かった。私たち市民は、日頃から防災に対して心掛ける責任がある。</p>